

鳴門市桑島小学校  
「学力向上実行プラン」

主体的で協働的な、深く学び合える授業実践

学力向上推進員 委員 校長:横田正紀 教頭:三原 泉 教務主任:中島佑樹  
特別支援コーディネーター:川野 晃代  
2年主任(低学年担当)西條敦子 3年主任(中学年担当)小野未来  
西條 敦子 6年主任(高学年担当)井藤幸恵

校長

横田正紀

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○知識技能の習得のため、根気強く素直に取り組む児童が多い。 ●漢字の書きとりや計算技術といった基礎的・基本的な知識・技能の習得が十分でない児童もいる。	・まとめのテストで、8割の児童が、上学年は70点以上、下学年は80点以上習得できる。 ・自分の力を高めようと繰り返し学習し、苦手な課題にも根気強く挑戦することができる。	・チャレンジタイム時に漢字・計算テストを計画的に行う。 ・ICTのソフトやデジタル教科書、タブレットを効果的に活用するなどして、個別最適な学習を保障する。	・プリントやテストの直しをきちんと行い、文章を書くときに習った漢字を使うように指導する。	・漢字テストの実施回数を増やしたことで、漢字の力がついてきた。 ・学習ソフト(ミライシード)を活用し、自分に必要な学習を積み上げることができたが、まだ十分な計算スキルがっていない児童がいる。	・引き続き、漢字や計算のミニテストを多く実施する。 ・アンダーラインや囲みなどをつけて学習し、重要な部分や指示語のさす部分、登場人物の心情などを読み取る学習活動を積み重ねる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えをもち、表現しようとする意欲が見られる。 ●考えをわかりやすくまとめて説明したり、友達の意見を取り入れて考えを深めたりできる児童がまだ少ない。	・自分の考えをもち、積極的に表現できる。 ・友達の考えを聞き、自分と比べて考えを広げ、理解を深めることができる。	・学んだことの振り返りの際に、語尾やキーワードを指定して自分の考えを書き、表現力を高めるようにする。 ・メタモジのふせん機能やホワイトボード、その他の思考ツールを活用して、思考の可視化と活性化を図る。	・ペアで伝え合う時間を設け、自分の考えをもち、友達の考えと比べることができるようにする。	・ペアで伝え合う学習を実施することで、自分の考えをもって表現する力がついてきている。 ・高学年児童は、タブレットのふせん機能を用いて、友達の考えと自分の考えを目と耳でとらえて比べ、考える活動ができた。	・思考の手立てとなるワークシートを用意する。 ・文章を書く際にはマインドマップの手法を活用し詳しく書く力をつける。 ・振り返りを書く際には、書き出しの文を指定したり、字数を決めるなど条件を満たして書く学習をする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に興味・関心を示し、意欲的に課題に取り組む児童が多い。 ●自ら課題を見つけ調べたりまとめたりするなど、自発的に学習に取り組むことができない児童がいる。	・課題について、自分の意思で選んだり決めたりしたことを表現できる。 ・疑問や知りたいことについて、自発的に調べたり学んだりして解決し、わかる喜びを感じている。	・疑問に思うことや、もっと知りたいことはないか問いかける機会を多くもち、振り返りの際に、見つけた課題や解決策について考えを書くように働きかける。 ・児童の学習意欲や頑張りを認め、達成感や自己有能感を味わわせる。	・子どもの発表内容を認め、それを生かした授業を展開し、学び合いの楽しさを感じられるようにする。	・タブレット操作のスキルが上がり、自主学習などの際に、自分で課題を設定し、調べてまとめるなど、意欲をもって学習する児童が増えてきた。 ・意欲的に発表し、学び合いを楽しんでいる児童が増えてきた。	・自分で調べてまとめるなど、意欲をもち取り組んでいる児童の学習内容を授業に生かし、全体に広げる。 ・児童の頑張り気づいてほめ、よくわかる授業を展開し、学習の楽しさを味わえるようにする。

令和5年度 学力向上ロードマップ



